YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリーに輝きを」 Light Up Rotary

2014-15年度 RI会長／ゲイリーC.K.ホアン　RI.D2590ガバナー／大野 清一　横浜旭RC会長／増田嘉一郎

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所　横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F
TEL.045-365-3273
FAX.045-365-3132
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
〒241-0821

例会場　二俣川相鉄ライフ４Fコミュニティサロン
例会日　毎週水曜日／12時30分～１時30分

２０１４年　１１月１２日　第２１７４回例会　VOL. ４６　No. １８

■司　　会　ＳＡＡ　斉藤　善孝
■開会点鐘　会　長　増田嘉一郎
■斉　　唱　我等の生業
　　ＳＬ　杉山　雅彦

■出席報告

会 員 数	35 名	本日の出席数	31 名
本日の出席率	96.88％	修正出席率	100％

■本日の欠席者
二宮麻理子

■他クラブ出席者
太田幸治（横浜 RC）
地区大会出席者（敬称略）
増田、漆原、関口、新川、秋内、福村、後藤、市川、北澤、岡田、田川、桜田、五十嵐、佐藤（真）、安藤（達）、安藤（公）、二宮、二宮（麻）

■ベネファクター表彰

安藤会員

■ポールハリスフェロー表彰

田川会員（1 回）、兵藤会員・吉原会員（2 回）

■地区大会表彰　長寿会員

吉野会員　　吉原会員

■地区大会表彰　30年皆出席

関口会員

■地区大会表彰　クラブとして受賞

出席率100%クラブ

米山功労クラブ

■会長報告

１）11月７日・８日の地区大会にご出席いただいた皆様、お疲れ様でした。安藤年度の出席率１位の地区表彰を受取って参りました。２日目には青少年奉仕・インターアクト委員会による商大高校インターアクトクラブも参加してくれた展示や、地区芸術祭には五十嵐会員の出展もありました。１日目の地区指導者育成セミナーで、私が印象に残ったことをお伝えすると、今、ロータリークラブは奉仕団体であるという事実があり、また地区も奉仕の主体になっているという事実がある。会員は、その事実を認識し、クラブの会員であるだけでなく、RIの会員であるという意識をもって活動すべきであるという、松宮直前RI理事のお言葉でした。会員皆様には、除々にでも、地区あるいはRIの活動に目を向けていっていただければと思います。

２）11月15日は、七五三です。昔は、子どもの死亡率が高く、人生の通過儀礼のお祝いとして、三歳から七歳の間にお祝いが行われるようになったとのことです。三と五と七は、めでたい数だからとか、厄年だからとか言われています。男の子は三歳と五歳、女の子は三歳と七歳にあたる年に、晴着姿で氏神様に詣でます。もともとは宮中行事や公家、武家で行われていた行事が広く行われるようになったもので、七五三と呼ばれるようになったのは明治時代からだそうです。

11月15日となったのは､｢鬼宿日｣といって、鬼が自宅にこもっている日のため、鬼に邪魔されずお参りができるからというのが、有力な見解です。

３）11月９日には、国際奉仕委員会による、旭区在住外国人を対象にしたもちつき大会が行われました。２週間程前は、出席者が少ないのではと心配されましたが、30人弱の外国人が参加してくれ、大盛況のうちに終わることができました。参加してくれた外国人も大変楽しそうに、また喜んでもらえました。

10月９日に職業奉仕委員会による旭高校での職業講話、19日に社会奉仕委員会と災害復興支援委員会によるロータリーデー（区民祭り)、11月２日・３日に青少年奉仕・インターアクト委員会による商大高校文化祭バザーへの献品の提供、そして、今回のもちつき大会と、各委員会の活発な活動が続いております。地区大会も含め、会員皆様のご奉仕に、心から感謝します。

４）11月５日の理事会で、当クラブ財政再建策について協議しました。クラブ運営検討ワーキング・グループから、現事務所を解約するとの結論に至ったとの報告がなされましたが、会費を値上げすべきとの意見も出ました。理事会としては、次週の会長エレクトフォーラムで、両案を説明し、今後は、会員の意見を聞きながら進めることになります。

■幹事報告

１）例会臨時変更のお知らせ

〇神奈川ロータリークラブ

日時　12月22日㈪夜間移動例会
　　クリスマス家族会
　　点鐘　午後６時30分

場所　横浜中華街　萬珍楼

日時　平成27年１月12日㈪休会

〇横浜あざみロータリークラブ

日時　11月26日㈬移動例会
　　点鐘　午後12時30分

場所　あざみ野団地集会所会議室

２）横浜西ロータリークラブよりご案内

障がい者のある方と共に楽しめるクラシックコンサート

日時　11月27日㈭開演２時

会場　関内小ホール

新進気鋭の若手演奏家によるお話つきコンサート。申込方法往復はがき又はFAXで

横浜西RC事務局まで　FAX　045-223-5768

■親睦委員会　　市川　慎二

■国際奉仕委員会　　青木　邦弘

もちつき大会の御礼

もちつき大会ご協力ありがとうございました。外国人親子約30人総勢60人で開催出来ました。瀬谷ロータリークラブから市川会長、相沢会員のご参加をいただきました。少し餅が多かったようです。次回は減らします。

■Ｒ財団委員会　　安藤　公一

ポリオ撲滅の為の特別寄付5,000円を来週集めますので、ご用意お願い致します。

■ニコニコBOX（会員敬称略）

増田嘉一郎／①地区大会、もつちき大会と３日間続けて行事が続きました。ご出席、ご奉仕いただいた皆様、お疲れ様でした。そして有難うございました。②鈴木さん、卓話を楽しみにしています。

鈴木　茂之／本日、つたない卓話ですが宜しくお願い致します。

安藤　達雄／鈴木さん、本日の卓話楽しみです。よろしくお願いします。

太田　勝典／青木さん、もちつき大会ご苦労様でした。

兵藤　哲夫／もちつき大会、青木さんごくろうさまでした。お手伝いの皆様に頭があがりません。お土産のおもちまで頂いて恐縮です。感謝いたします。

安藤　公一／①先週の地区大会ご参加の皆様、お疲れ様でした。②鈴木さん、卓話宜しくお願い致します。

二宮　　登／青木さんはじめお手伝いの皆さん、国際もちつき大会ご苦労様でした。参加者の皆さんが大変喜んでいましたね。

関口　友宏／地区大会で皆出席賞を頂きました。

吉原　則光／鈴木さん、卓話期待しています。よろしくお願いします。

田川　富男／①青木委員長はじめ国際奉仕の皆様、もちつき大会ご苦労様でした。楽しく奉仕が出来ました。②鈴木さん、卓話楽しみです。

岡田　清七／鈴木会員の卓話、楽しみに聞かせていただきます。

内田　　敏／鈴木さん、本日の卓話楽しみにしています。

北澤　正浩／鈴木さん、卓話楽しみにしております。

杉山　雅彦／①鈴木会員、卓話楽しみにしております。②寒くなってきました。皆様、お風邪を召されませんように…

後藤　英則／鈴木さん、本日の卓話楽し味です。

新川　　尚／鈴木さん、卓話宜しくお願いします。

斉藤　善孝／鈴木さん、本日の卓話楽しみです。

青木　邦弘／鈴木さん、卓話楽しみです。柔らかいお話を！

市川　慎二／鈴木さん、卓話宜しくお願い致します。

■卓話

「世界の人口増加と日本の少子高齢化について」

鈴木　茂之

現在の世界人口は、70 億人に達しております。世界の国の数は 193 カ国あり、その中で開発の遅れた国々である開発途上国は 153 カ国あります。70 億人のうち開発途上国の人口は約 57 億人と、実に 82% が開発途上国の人々二で占められています。先進国の人口の割合は 18% に過ぎません。今後 2050 年には 100 億人に達し、人口増加の 97%は開発途上国に集中しています。

人類が 10 億人を超えたのは産業革命初期の 19 世紀初頭でありました。それからわずか 200 年余りで 7 倍になったのです。

世界が科学技術ならびに産業技術の発展にけんいんされ経済成長と近代化を図ったこの 2 世紀は、同時に人類の人口が爆発的な増加の時代でもありました。

現在、世界の人口は、1 分に 137 人、1 日で 20 万人、1 年で 7 千万人、増えています。世界中で、1 年に 6 千万人が亡くなり、1 億 3 千万人が産まれています。2050 年には 100 億人になっていると考えられています。特に、第二次世界大戦後における中国、インドなど開発途上国を中心とした世界人口の急増は、今日において食糧不足、地球資源、の枯渇、環境破壊など人類の危機の諸問題の原因となっております。この問題に世界的関心が高まり、問題解決のための国際的取り組みが続けられています。

幸い世界人口の増加の勢いは 1970 年頃を境として徐々に弱まってきており、今では、長期的観点から「世界の人口増加の終鷲」が語られており、国連の推計では世界人口が今世紀末に 100 億人に達するものの、その後は、ほぼゼロ成長に向かうものと見ています。しかしながら、今後しばらくは毎年 7,000 万人を超える人口が地球に付け加わり、地球の資源、環境に対する圧力をじわじわと強めていくという事実に違いはありません。また、先進国と開発途上国の経済格差が拡大しているばかりでなく、途上国の中でも人口や開発の格差が広がってきています。アジアのタイなどの新興工業地域、中国、ブラジルなどの国々が多産多死から少産少死に成功するとともに経済発展に軌道に乗りつつある一方で、アフリカ、西アジアの多くの発展途上国はいまだ人口転換の多産少死段階にあり、人口は増加し続けて経済開発の遅れが目立っております。

このように世界の人口問題は決して過去の話ではなく、すぐ訪れてくる大変重要な課題であります。しかも、人口爆発一色であった世界の人口問題に、近年、新たな問題が付け加わってきました。エイズの蔓延、エボラウイルスなどの感染症は、世界的な広がり、地球規模の問題に発展しています。

それでは、人口の膨大による弊害が地球環境に直接的に悪い影響を及ばしていますが、具体的事例を調べたところ、先進国ではすでに人口増大（爆発）を起こし自給自足ができなくなり、その資源を途上国に求めました。また、途上国では今日の人口増大（爆発）を引き起こし自国の産業では国民は食べて行けず、自国資源（自然）を売ったり、開発を積極的に進めました。その結果、食糧不足、資源の枯渇、環境問題に発展しました。途上国では、食糧増産、紙パルプなどの原材料の確保になどにより森林を切り開いて行き、その結果、森林破壊が進み、砂漠化や水の枯渇などの問題に発展しています。

森は生物のために水や食べ物を提供してくれるほか、土壌をつくったり、生態系の維持という働きもします。さらに、今日大きな問題となっている異常気象がありますが、その原因である地球温暖化との問題に深くかかわりがある二酸化炭素についても、森は二酸化炭素から酸素を作るという、生物にとって大切な酸素ボンベの役割も行ないます。人類にとって生命維持装置ともいえる森が急速に失われつつあるのです。国際連合食糧農業機関の調査によると、あと 100 年で地球から森が消えるとの報告もあります。

地球の資源には限度があります。食糧もエネルギー源も有限であります。供給できる範囲、再生できる範囲で使用しなければ枯渇は目に見えています。ところがそれとは、逆行して、先進国の我々は限りなく「便利・快適」をめざし、途上国の資源を大量消費し使い捨てにしているのです。このままでは、人口爆発、資源枯渇、環境破壊で将来の破局は避けられません。大量消費による経済発展には、その陰に途上国の犠牲があります。先進国に住む私たちは、欲しい物は全て手に入りますが、ぜいたくな生活をしながら、一部の人は「何かおかしい、何かむなしい」と感じています。一人一人が出来ることから、大量消費、大量廃棄のライフスタイルを見直す時期に来ているのではないでしょうか。

先進国と開発途上国の人口増加の違いを調べたところ、現在の世界で人口の多い国は、皆さんご存知のように１位は中国の 13 億５千万人、２位はインドの 12 億人、３位はアメリカの３億人、４位は皆さん、どこの国かご存知でしょうか…。インドネシアの２億３千万人です。日本の約２倍の人口です。現在インドネシアに日本の企業が積極的に進出を図っていますが、人口の多さだけ見ても経済市場の大きさがお分かり頂けると思います。５位ブラジル１億９千万人、６位パキスタン１億８千万人、７位はバングラディシュ１億６千万人、８位ナイジエリア１億５千万人、９位ロシア１億４千万人、ちなみに日本は 10 位の１億２千万人です。アジアの国々が 10 位までに６ヶ国が入っています。

また、中国とインドで世界人口全体の約４割近くを占めています。２つの国がいかに大国かお分かり頂けると思います。逆にヨーロッパの EU27 ヶ国は合計で４億９千万人です。いかにアジアの国々などの開発途上国に人口の多いのがお分かりいただけると思います。

では、なぜ先進国より開発途上国の人口増加が激しいのでしょうか。

いろいろ理由は考えられると思いますが、大きな理由の一つとして教育普及度の違いによるものと考えられます。

社会の発展は産業の高度化や高学歴化をもたらし、高学歴は子供教育費の増大と子供が社会的自立できる年齢を遅らせる効果をもたらしました。子供の教育費は親にとって負担になるため、夫婦は子供の数を減らしますし、高学歴による社会的自立可能年齢の上昇は晩婚化につながり、こちらも少子化の原因となります。

開発途上国の子供は、教育が普及していないので日本の中学生くらいの年齢ではすでに稼いで家計の助けになりますし、小学生くらいの子供は乳幼児の面倒をしっかりと見ていますので、あまり親にとって負担にならないのです。子供は労働力の一人として考えられており、福祉環境が貧弱なため老後を子供に頼らなければならないなど考えられ、また、女性は男性より仕事が少ないことが途上国では多いので、女性は結婚しなければ生活出来ないことが多く、結婚率が高ければ必然的に子供の出生率はあがり、人口増加につながります。

逆に、先進国の女性は男性同様に高学歴であるため働き先は多くあり、結婚しなくても自立できるので、男性も女性も無理に結婚しなくても生活はできるので結婚率が上がらないという考え方もあります。従って、子供の出生率が低く、人口増加が図れないのではないか、と思われます。

そんな中、日本においては、人口問題はまた別の観点での問題を抱えています。そのことをこれから述べていきます。

○「日本の人口減少と少子高齢化の問題」

「高齢化」とは国や地域の人口に占める高齢者の比率が高まることを指しますが、日本の高齢化は「長寿化」と「少子化」という、二つの大きな流れが組み合わさった結果ととらえることができます。長寿化は、医療技術の進歩や生活水準の向上によって、人々が長生きできるようになったというとこですから、基本的には喜ばしいことであり、その結果、高齢者の人口が増加を続けているわけです。

一方で、少子化については、日本では所得水準が上がったことで趣味の多様化や、高度化し、また、同時に人生に対する考え方もいろいろ個人差が出て、若い世代の人達は結婚だけが人生ではないと考える若者たちが増えたことによりおきていると考えられています。

少子化の傾向は、最初は子供の数の減少、続いて若者の数の減少、さらに生産活動を担

う労働人口が減少に転じています。この二つの流れが重なったことで、日本の人口が減少して、なおかつ、日本の人口に占める高齢者の比率が上昇を続けているのです。内閣府の将来の推定人口では、現在約１億５千万人の人口が、2026 年には１億２千万人を下回り、2048 年には１億人を割ると予想しています。

逆に、高齢者については、65 歳以上の高年齢者の比率は 1990 年には総人口の 12% に過ぎませんでしたが、2013 年には 25.14% まで上昇しており、2030 年には 32%、2050 年には 40% にまでに上昇すると考えられています。

次に、日本の少子高齢化の弊害としての問題点を考えて見ます。

第一に、皆さんがお分かりのように…。社会保障制度の崩壊の危機です。年金を受け取る高齢者が年々増加する一方、新たに年金に加入する人口が減少しています。また、医療費や介護保険料などついても同様です。高齢者になるとどうしても医療や介護に頼ることが増えます。高齢者が急増している現在、その分の財源確保が大きな問題となっています。現在、社会保障関係費は国の一般会計予算の 32% を占めており、公共事業費の６%、防衛費の５% などと比べても分かるように、最大の支出項目になっています。長年の足りない分は借金つまり国債を発行して賄ってきたので、借金は約 1000 兆円にもなり、財源確保の問題として、消費税を来年の 10 月から引き上げられるかどうか、大きな議論のなっているのは、皆さんがご存じだと思います。

第二は労働人口の減少が発生し、産業活動の担い手が不足し日本経済の活力が無くなり、日本の経済の発展が阻害されるようになりました。そこで、60 歳以上の人には定年の延長などにより、永い間働いてきた経験を生かして若い労働者不足を補って働いてもらい、また、それは年金の受取開始年齢の延長などにより 60 歳越えても働かざる得ない理由もあります。もう一つ、労働人口の不足を補う方法として、結婚して家庭にいる女性、つまり子育ての女性には、子育て支援の拡充など通じて、女性の労働参加を促進させ労働人口の減少を補うなど、現在、安倍政権で叫ばれているは、ご承知のとおりです。また、それは、少子化対策でもあります。

今日の日本は、過去の高度成長期と違って、働く者の賃金は上がらず、子供の教育資金など手当てするために共働きの夫婦は増えておりますが、保育施設拡充の遅れや子育てしながら働く女性に対しての理解の乏しさから負担を考え、あえて子供を作らない夫婦も多いと言われています。子供の育てやすい環境作りが必要ではないでしょうか。社会全体に産休や育児休暇の制度を広く浸透させるなど、子育てをする女性が働く環境を整えるのが不可欠です。待機児童の問題など、早急の解決が必要でしょう。

ここで、待機児童について、簡単にお話します。待機児童とは、子育て中の保護者が保育所または学童児童施設に入所申請しているにもかかわらず、入所できない状態で、保育所が不足していたり、定員が一杯であるために入所できずに入所を待っている状態です。待機児童は共働き家庭の増加や家庭環境の多様化など社会構造が大きく変化したために保育所を必要とする子育て家庭が急増するなかで、保育所の増設や受け入れ人数の増加や施設整備の遅れたことが、現在の待機児童問題の原因であります。現在、日本政府は育児世代の女性を労働力として活用することを推進しており、価値観や消費者ニーズが多様化しているために保護者の就労形態・就労時間も多様化しており、０歳から２歳の保育、長時間の保育、夜間保育などの拡充を求める意見も多いのが現実です。

横浜市は、待機児童が 2009 年には 1,290 人、2010 年には 1,552 人、と全国最多であったが、2013 年４月１日待機児童ゼロを達成しました。横浜市の取組みが契機となり、改めて待機児童の取組みが重要であることを知らしめ、全国的に緊急な課題となったのです。

フランスの人口対策がしばしばマスコミなどで取り上げら紹介されています。そこで、日本の人口対策を考える上でヒントとなるフランスの人口対策について紹介します。

フランスの出生率は、1994 年 1.65 でしたが、2008 年 2.02 まで回復しました。

フランスの人口対策の特徴として、二つあります。一つは、家族給付の規模の大きさにあります。家族給付において、日本は GDP 比約１% と先進国の中で最低であるのに対

し、フランスは３％を上回っています。社会保障費支出の占める家族給付の割合は日本の4.23%ですが、フランスは10.22%となっております。良く言われるのですが、日本の社会保障は高齢者に手厚く、若い世代には薄いのが現状です。フランスの家族給付の特徴は、社会的弱者の配慮です。家族補足手当、家族支援手当、ひとり親手当、特別教育手当などあります。

二つ目は、結婚制度の柔軟性にあります。それは、婚外子の多さに現れており、その割合は新生児の50%を超えており、フランスは婚外子を支える支援制度の「パスク」という制度があります。これは、結婚と事実婚の中間にあたり、納税の扶養控除、社会保障の給付、相続などにおいて結婚した夫婦並みに受けられることが出来ます。子供を産む方法として、結婚だけではないと考え方で、この制度は、フランス人らしい柔軟な人生観から生まれたのでしょう…。

この制度を日本に導入するには、まだ、多くに議論が必要でしょう。ただし、現在の日本において結婚したカップルの離婚率は36%に達しており、また、結婚しても子を産まないカップルも多く見かけられます。離婚して子供がいたら一人で育てなければならず、母子家庭の平均年収は213万円と言われており、厳しい生活に立たされております。その他、独身男性の多くが経済的理由で結婚そのものに踏み切れないのも現実が一方であります。

また、今日の日本での子育てで、大きな負担になっているのが教育費です。

フランスなどで実践されている「高校までの国公立学校の教育費の無料化政策」を取り入れるなど一つの方法として考えられます。現在日本の子供を幼稚園から大学まで国公立の学校に通わせても約750万円かかります。こうした高い教育費の負担を感じ、出産を抑えていると考えられます。また、今日では、住宅問題や子供の教育を考えると、我々の両親の世代などのように６人や７人兄弟など、まず、考えられませんが、女性が活躍しやすい社会になれば、出生率が上がり労働力となる若者の数も増えます。労働人口も確実に増え、よって、年金加入者も必然的に増え、財政を助けることにつながるでしょう。

高齢者については、この高齢者時代に立ち向かっていくのにカギとなるのが「生涯現役社会」のコンセプトです。これは、年を取ってからもそれぞれの事情や意欲にあわせて、誰もが何らかの仕事を続けられるようにしていこうという考え方です。年を取ってからも、暮らしていくのに必要な資金を一部でも自力で稼げるようになれば、年金給付の開始年齢を遅らせる問題も解決でき、社会保障費負担が少しでも軽減が図られますし、消費税率の引き上げも小幅で、済むかもしれません。高齢者の方も、仕事のなかに生きがいを見い出したり、ハリのある日々を送ることができ健康を維持できるといったメリットを期待できます。医療費などの削減につながります。

日本は借金大国と言われています。前に述べたように日本の債務残高は1,000兆円になります。皆さんご存知のように世界第１位です。そもそも日本における借金は政府が企業や国民に対して「国債」を発行して賄っています。しかし、少子高齢化社会が進んだことによりGDP（国内総生産）の減少にもつながっていきます。単純でありますが、それは、働く世代が増えれば日本の労働者人口が増えGDP（国内総生産）が増加するのです。

2012年時点で60歳以上の人口が３割を占める国は日本だけですが、2050年には64カ国になり高齢化は世界中で例外なく、しかも確実に進む。超高齢化について日本は異国な国ではなく、世界のフロントランナーです。

世界の地域において、さまざまな人口問題を抱えていますが、今を考えているのは今の人々、次のことを考えていくのは果たして誰なのか、自然という驚異に、間違いなく人類はおろか生きるすべては失われて、地球そのものはリセットされると思います。自然の中に活かされている一動物として、何をすべきか、人口問題ということだけに捉われずに行動していくことが必要と感じた結論です。是非、皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。

以上で本日の卓話とさせて頂きます。

ご清聴ありがとうございました。

■次週の卓話　11/26　一般卓話

アジアの女性と子どもネットワーク

山本　博子様

週報担当　桜田　裕子

2014～2015年度 第7回 理事・役員会議事録

日時 平成26年11月5日	出席者
	増田嘉一郎 新川尚 青木邦弘 安藤公一 田川富男
場所 クラブ例会場	佐藤真吾 福村正 後藤英則 佐藤利明
	漆原恵利子 内田敏 齋藤善孝

【報告事項】

1)地区

11月7日・8日　地区大会

12月1日　ロータリー財団補助金管理セミナー

2)クラブ

11月9日　もちつき大会（国際奉仕委員会）

12月3日　年次総会・理事役員会

3）10月収支

①本会計

	予算	10月末累計	昨年10月末累計対比
収入	10,474,995	5,459,151	△225,893
支出	10,477,078	4,331,426	410,861
収支合計	△2,083	1,127,725	△636,754

②特別会計

	予算	10月末累計	昨年10月末累計対比
収入	1,500,000	575,780	19,780
支出	900,000	111,576	60,724
収支合計	600,000	464,204	△40,944

③①＋②合算

	予算	10月末累計	昨年10月末累計対比
収入	11,974,995	6,034,931	△206,113
支出	11,377,078	4,443,002	471,585
収支合計	597,917	1,591,929	△677,698

※例会費（ビジター費を除いた）4か月合計1,122,102円（1回35.07人、70,131円）

1年間に換算すると、予算28万余円オーバー、昨年度決算額45万余円オーバー。

④地区補助金

収入	243,984
支出	0
収支合計	243,984

【審議事項】

次のとおり、議案について承認された。

1）チャリティコンサートの件

これ迄支出している650,354円と今後7万円位の支出が見込まれることが報告され、これ迄の支出分（後日明細提出）とクラブから50万円を支出することが承認された。また、今後企業協賛金等によりクラブ支出を減額するように努めることが報告された。

2）例会の食事の件

12月より第1・第3・第5週を謝朋殿に、第2・第4週をキャラバンへ発注する。食事代については、漆原幹事と市川副幹事に、両店と1回6万円での交渉を委ねることとなった。

3）千葉和裕会員退会の件

千葉和裕会員の10月22日付退会届を同日付受理とする。

4）クラブ奉仕委員長選任の件

青木副会長をクラブ奉仕委員長に選任する。

【協議事項】

1）当クラブ財政再建の件

クラブ運営検討WGより、資料に基づいてクラブ事務所を解約するとの結論に至ったことが報告されたが、11月19日の会長エレクトフォーラムにおいて、この案と会費を年額28万円とする案とを提案して、会員の意見を聞いて、今後の方針を決めることになった。